

広島県障害者社会参加推進センター会報

発行・編集 広島県障害者社会参加推進センター
〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2
広島県身体障害者団体連合会事務局
〔TEL(082)254-2505・FAX(082)254-0202〕

第23回全国障害者スポーツ大会（SAGA2024） で広島県選手団が大活躍

「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインメッセージに第23回全国障害者スポーツ大会（SAGA2024）が10月26日（土）から28日（月）までの3日間の会期で開催されました。この大会は、障害者が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的とした障害者スポーツの全国的な祭典です。



SAGAサンライズパークをメイン会場として、全国から都道府県・指定都市の選手団約3,200名が参加し、個人競技7、団体競技9の16競技、8つのオープン競技が実施されました。

本県からは、広島県身体障害者団体連合会会長の小田龍雄 団長率いる56名の選手団（選手29名（身体障害14名、知的障害14名、精神障害1名）、役員27名）が参加しました。

女子50m平泳ぎで近江優菜 選手が大会新記録で優勝し、アーチェリーの渡邊大輔 選手はコンパウンド50m・30mラウンドで大会タイ記録で金メダルを獲得するなど、選手の皆さんはベストを尽くし、金メダル7個、銀メダル11個、銅メダル10個の大健闘でした。

この大会に先立ち、10月24日（木）に広島コ

ンベンションホールにおいて、県選手団の結団壮行式が、全選手・役員参加のもと開催されました。この結団壮行式では、団旗授与の後、玉井優子 副知事、山根恒弘 広島県パラスポーツ協会会長の壮行の言葉、鷹廣純 広島県議会総務委員長などから激励のことばを受けました。その後、選手を代表して正法地司さん（陸上）の選手宣誓に続き、団長あいさつをもって終了しました。



選手団は壮行式を終え、多くの関係者に見送られながら広島駅に移動。新幹線で佐賀に向かいました。

当日夕方、佐賀県に到着。地元の皆さんに大きな歓迎を受け、翌25日の公式練習に臨みました。

10月26日はあいにくの雨模様でしたが、秋篠宮ご夫妻ご臨席のもと、選手や大会関係者ら6,000人が参加し、SAGAスタジアムで開会式が行われました。選手団の入場に合わせ歓迎パフォーマンスが始まり、広島県選手団は全国67選手団とともに元気いっぱいパレードしました。国民スポーツ大会から引き継がれた炬火が炬火台にとりもされ、秋篠宮様が「日頃の練習の成果を存分に発揮され、素晴らしいパフォーマンスを披露していただければと思います。」とお言葉を述べられました。

期間中は天候も回復し、各会場で熱戦が繰り広げられました。

10月28日にSAGAアリーナで開催された閉会式には、高円宮妃久子様が臨席され、佐賀県の山口祥義 知事から、来年開催する滋賀県の三日月大造 知事へ大会旗が手渡されました。ファイナルステージでは、地元出身の鷲尾伶菜さんが大会のイメージソングを熱唱して大会は終了しました。

来年の全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」は、滋賀県で令和7年10月25日（土）～10月27日（月）の3日間開催される予定です。

公益社団法人広島県パラスポーツ協会
〒739-0036 東広島市西条町田口295-3
Tel : 082-426-3333 Fax : 082-425-6789
ホームページ : <https://www.hpsa.info/>

第49回広島県知的障害者福祉大会廿日市・大竹大会並びに第22回はつらつ大会（本人大会）廿日市・大竹大会の開催

廿日市市手をつなぐ育成会、おおの手をつなぐ育成会、大竹市手をつなぐ育成会の合同で主管された令和6年度第49回広島県知的障害者福祉大会廿日市・大竹大会並びに第22回はつらつ大会（本人大会）廿日市・大竹大会が、総勢687名の参加者により盛大に開催いたしました。久しぶりの一日開催でした。



一般大会 開会行事 さといもの会の歌と伴奏による「手をつなぐ母の歌」の斉唱

11月17日（日）、会場となった「廿日市文化ホールウッドワンさくらびあ」の大ホールでは、一般大会の会場として、開会式に続きシンポジウム、午後からは講演会を行いました。小ホールでは、はつらつ大会（本人大会）の開会式、災

害についての勉強会、午後からは三つのグループに分かれての活動、全員が集まったの音楽鑑賞を行いました。2階の「ホワイトエ」では、12事業所による出店があり、利用者の皆様による自慢の製品の販売、コーヒーが飲めるブースでにぎわいました。

本大会のメインテーマは、「つながろう ひろげよう 手と手をつなぐ“絆”の輪を！！」です。一般大会のテーマは、「心通うネットワークの構築を目指して」、はつらつ大会は、「人との出会いを大切に 絆を深めよう」です。人間関係が希薄化する中、障害の有無にかかわらず地域で安全に安心して暮らすことができる共生社会の実現のためには、相手を理解し寄り添える絆の輪の広がりが必要です。



はつらつ大会（本人大会）閉会式での「大会決議文（案）」の発表

今回の一般大会、はつらつ大会の特徴的なことは、共通して昨年1月1日の能登半島地震から「災害」について学ぼうという内容を入れたことです。一般大会の講演会には、書家の金澤翔子様とお母様の泰子様のお二人に登壇していただき、「ダウン症の娘と共に生きて」と題して心に残るお話を伺いました。はつらつ大会では、バルーンアーチェリーやけん玉体験等この地域ならではの体験に挑戦しました。元カープの3選手との交流では、会場は、熱気に包まれました。

大会の準備・運営は大変ですが、会場を後にする参加者の笑顔とお礼の言葉に、やってよかった来て良かったと思える大会となりました。

一般社団法人広島県手をつなぐ育成会
〒733-0004 広島市西区打越町17-27
Tel : 082-537-1773 Fax : 082-537-1778
E-mail : kenhonbu@pref-h-ikuseikai.or.jp
<https://pref-h-ikuseikai.or.jp>

「家族による家族学習会」について

広島県精神保健福祉家族会連合会、広島市精神保健福祉家族会連合会では、家族による家族学習会を毎年行っています。

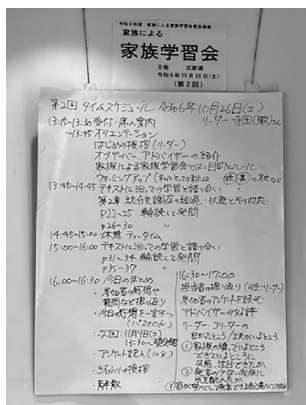


精神疾患によって、しんどさや辛さを抱えながら毎日を過ごしている当事者、そしてその家族へむけて「ひとりで悩み、抱え込んでいませんか」と声かけをさせて頂きながら、ともに病気と向き合い、理解し合い、分かち合

い、精神疾患に対して正しく理解を深めることができるよう、そして当事者、家族があたりまえに地域で安心して過ごしていけることを願いながら、みんなねっと監修の「じょうずな対処・今日から明日へ」心理教育テキストを使い、家族会が主体となって家族による家族学習会を毎年、継続的に開催しています。

担当者研修会の研修を受講した家族会のメンバーが担当者となり、5回の学習会の企画をし、細やかに計画を立て実行します。

色々な方々に開催の案内を行い、参加者を募り、安心して話せる場所づくりや雰囲気づくりをして、ところからのおもてなしを行います。(おもてなしとは、参加者一人一人を大切に思い、それぞれの体験をねぎらうこと、参加者が「学習会に参加してよかった」と思えるように心遣いすること)



テキストは第1章から第5章まであります。

- ① 病気について知ることのはじめの第一歩、
- ② 病気の経過・状態とその対処、③ 病気の治療と支援、④ 住みたい町で暮らし続けるために、⑤ 家族自身が元気を保つためにとっています。学習会のルールを守りながらゆっくり、みんなでテキストを輪読しながら学習を深めていきます。

家族学習会は、自らの体験を話したり、困

ってしまったことや病気と上手に付き合うことができたことなど、各々の体験を少しずつ語りあいながら家族同士だからこそ話せる、ともに生きる絆を感じながら安心して学んでいける、本人、家族にとってとても大切なものと考えています。



公益社団法人 広島県精神保健福祉家族会連合会
〒735-0006 広島県安芸郡府中町本町三丁目
11-9 榮会館
Tel・Fax : 082-285-3837

あいサポートアート展の開催

あいサポートアート展が、10月29日(火)から11月3日(日)まで、広島県立美術館で開催されました。アート展は平成24年度から開催され、今年度が13回目の開催です。

8月末までを募集期間とし、審査の結果396点が入選展示されました。また、県知事賞1点、金賞2点、銀賞3点、銅賞4点、審査員特別賞1点の計11点が選ばれ、作者に表彰盾が贈られました。

11月26日(火)から12月1日(日)まで、ふくやま美術館でも展示されました。その後、入賞作品を中心とする10点が県内6市町で巡回展示されます。まだご覧になったことがない方も、巡回展示の機会には是非ご覧ください。



広島県では、平成29年4月から、広島県アートサポートセンターを設置しています。創作活動に関する相談に応じる他、ワークショップの開催や指導者の派遣等も行っています。創作活動をしている方も、支援する方も、お気軽にご相談ください。

令和6年度広島県知事賞
柏和隆氏「かしか2024」

広島県アートサポートセンター

〒731-0102広島市安佐南区川内六丁目28-15

Tel : 070-5671-8668 Fax : 082-831-6889

ホームページ<http://hululu.jp>

「あいサポート・ふれあいコンサート in ひろしま」が開催

9月14日(土)コジマホールディングス西区民文化センターにおいて「あいサポートふれあいコンサートinひろしま」が開催されました。このコンサートは、障害のある方の舞台芸術活動への参加を通じて、生活を豊かにするとともに、県民の障害への理解と認識を深め、障害のある方の自立と社会参加の促進に寄与することを目的に、広島県が主催、広島市が共催するものです。

コロナ禍の影響も癒え、参加者は大幅に増えて11組の皆さんが、ダンスや歌など日ごろの練習の成果を発表しました。

特別支援学校生徒の谷口蒼依さんによる司会で進行し、林誠 実行委員長の挨拶で開幕しました。



(天手鼓舞)

トップバッターの「広島市中途失聴・難聴者協会文化部和太鼓天手鼓舞」は勇壮な和太鼓を披露。二番手の「多機能型事業所 LOVEART」は、元気にかっこよくダンスしました。続いて、「こどもひろぼういず」は固いチームワークでハンドベルを見事に演奏しました。4番手の「LUSTER」from 多機能型事業所 LOVEART」は楽しさあふれるパフォーマンスでした。5番手は「広島県立視覚障害者情報センター パンプス」で、竹や葦を束ねた珍しい縦笛パンフルートを演奏し、練習の成果を発揮しました。前半の最後は「出島 HIPHOP」で一生懸命・力いっぱいダンスをし、会場を沸かせました。



(出島 HIPHOP)

ここで、司会者が宮島柗陽さんに交代。後半1番手は、昨年が続いて尾道市から参加の「ルーリーズ」。作詞作曲全てがオリジナルソングでした。続いて「笑顔チアリーディングチーム」は息のあったチアリーディングを披露しました。



(笑顔チアリーディングチーム)

3番手の「放課後等デイサービスきちの実」は皆で力を合わせて踊り切りました。4番手は



(ワークショップ西風舎)

「NPO法人ワークショップ西風舎」。心に響く歌声を会場に届けました。トリは昨年引き続き参加の禮志竜聖さん。ビジュアル系のメイクとド派手なパフォーマンスで会場の度肝を抜きました。

以上でコンサートは終了し、彌政慎一 副実行委員長の挨拶で閉会しました。参加者の熱演に対して観客から大きな拍手が送られました。

あいサポート・ふれあいコンサート運営委員会

広島市南区比治山本町12-2

広島県社会福祉協議会 法人振興課内

Tel:082-254-3416 Fax:082-256-2228